スマートミュージアム Kakamigahara

かかみがはら百科 2026 | Vol. 07

かかみがはら百科

Kakamigahara Encyclopedia

特集

野口町中世館跡発掘調査

～受け継がれてきた、由緒と歴史～

CONTENTS

特集	野口町中世館跡発掘調査	02
調査速報	古代の銅製権と羊形硯	06
	那加地域の古代集落	08
各務原の美術	アートウィンドウ 三輪乙彦展	09
事業報告	第2回 @えぎぬ展	10
	特別企画展 各務原市と太平洋戦争	12
各務原を知る	戦国の鵜沼城主 大沢次郎左衛門	16

野口町中世館跡発掘調査 ～受け継がれてきた、由緒と歴史～

南東から野口町中世館跡を望む

※表紙写真
野口町中世館跡発掘調査の様子
土塁断面の崩落を防ぐため、土を段状に掘り残して作業している（図1・調査区⑤）

野口町中世館の特色

戦国時代に築かれた1辺75ｍほどの方形居館で、敷地内の四方を囲い込むように土塁と外堀が並走しています（図1）。特に、南東部の土塁と堀は、複雑な構造になっており、内部へクランクするように築かれる一方で、方形に区画された四隅の一角をなすように付け加えたと考えられる部分があります。

クランクする土塁の西方には櫓台を想像させる高い土盛り⑦があり、増築された四隅の区画には曲輪のような平坦なエリア⑥が設けられています。このように、一般的な方形居館には見られない特異な構造は、野口館の特色と言えます。

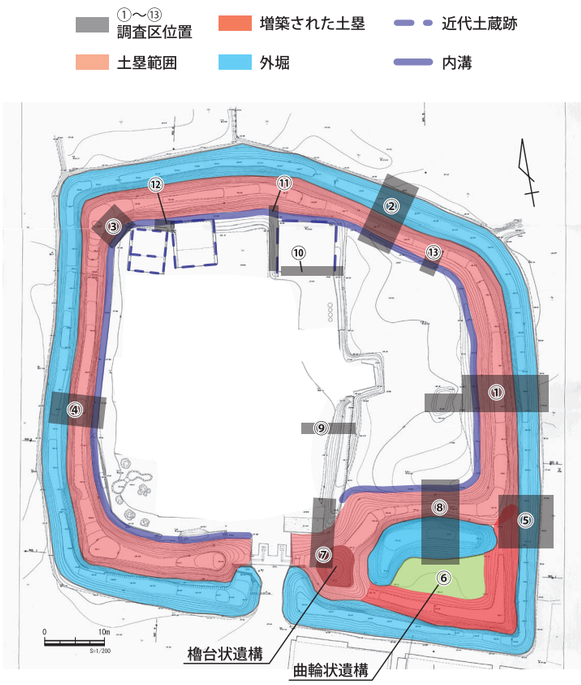


図１　調査区全体図

土塁・外堀の構築と近世の改修

調査により、土塁と堀の構築工法が明らかになりました（図２）。戦国時代、居館と同時に築かれたと考えられる外堀（1）と土塁（2）は、外堀を掘った土を土塁側へ盛り上げたことが土層の観察から分かります。堀の底から土塁の頂上まで、約3.2ｍの相対高が防御機能を成したと思われます。居館を囲む土塁を造る際には、多大な労力が必要であったことが想像できますが、合理的な構築工法が用いられたと言えます。

そして近世に入って以降、土塁などに改修が加えられていることが分かりました。内溝（3）の掘り下げ、土塁の嵩上げ（4）があったようです。また、土塁側面の削り出し整形（5）により、さらに急勾配に改修されています。

戦国時代に造られた土塁は、さまざまな改修を経て維持・管理されてきたものであると認められます。それは本遺跡が、今日まで大変良好な状態で残存した要因の一つであると言えます。

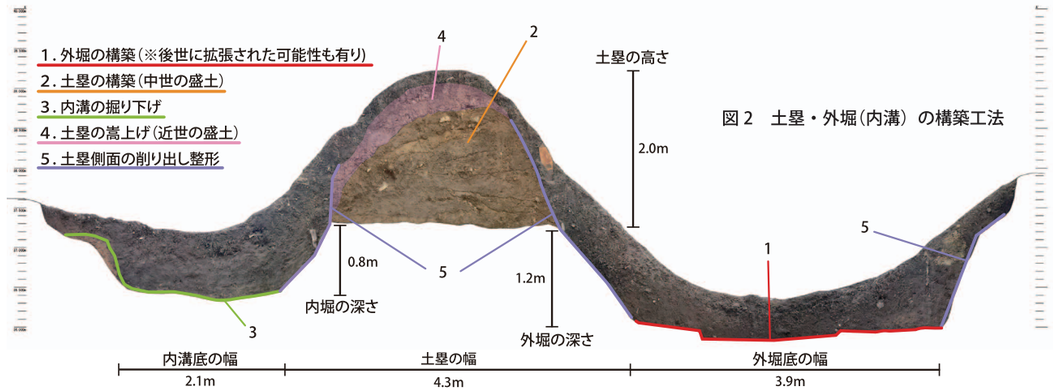


図２　土塁・外堀（内溝）の構築工法

近代土蔵跡（調査区③）

近代土蔵の礎石と高さ約1mの石積み。周囲からは、近代の瓦や磁器などが出土しました。

櫓台状遺構（調査区⑦）

ここは周囲より高くなっており、遠くまで見渡せる櫓台のような機能があった可能性もあります。頂上には、平坦にした、あるいは突き固めたような面はなく、柱穴など建物跡は確認できませんでした。

階段遺構（調査区⑬）

鬼門を意識した場と思われる敷地北東部には、石組みをした階段があり、祠があったことが想像できます。

曲輪状遺構（調査区⑥）

土師器皿を中心とする遺物が多数出土しましたが、建物跡と断定できる柱穴の並びは確認されませんでした。何らかの意図があって、曲輪のような区画が増築されたようです。

出土遺物

土塁・外堀から出土した土師器皿、山茶碗は鎌倉時代（13～14世紀）のものが多く、中世居館で使用された15世紀の遺物は少ないです（写真1）。

写真1　出土遺物

これは、土塁構築の際に下層の遺物が混入したためと考えられます。中世だけではなく、古代の遺物も多数出土しており、特に内溝（図1①）からは全国的にも出土事例の少ない羊形硯（羊の頭部が付いた硯）が出土しました。一方で、石積み・石列付近（図1⑬）からは、近代瓦や近代磁器が多数出土しています。建物の屋根瓦や食器類などが短期間に廃棄されたものと見られます。

中世居館としての存続時期については、今後の遺物分析から特定を試みます。

現地説明会の開催

12月6日に一般の方を対象とした現地説明会を開催、366人が現地を訪れました（写真2）。学芸員による調査成果の説明では、迫力ある土塁と堀、多数出土した遺物を間近にしながら、歴史的価値の重要性をお聞きいただきました。

住宅街に広大な面積を誇る野口町中世館跡に思いを馳せながら、もう二度と目にすることのできない瞬間に立ち会っていただくことができました。

写真2　現地説明会

安積家と野口町中世館跡

この度の発掘調査により、戦国時代に築かれた土塁と堀の構造や築かれてから現在の姿に至るまでの経緯を調べることができました。戦国時代に築かれた土塁は、外堀と同時に合理的な構築工法であったことが認められます。また、近世以降に行われた野口館の土地全体の改修は、代々居住してきた安積家の歴史として注目されるところです。土塁や石積みなどの大規模な改修があった背景には、戦国時代の歴史ある構造物を保護・管理するとともに、安積家が代々受け継いできた由緒や威厳を示すといった意向もあったのかもしれません。中世居館は、次代に移っても廃れることはなく、姿を変えながらも地域の中で厚く誇示されてきたのではないでしょうか。

今後は、本遺跡で得られた調査成果をさらに精査・検討を重ね、各務原市における戦国時代から近世の様相を深く掘り下げていきたいと思っています。

（三浦 薫平）

安積家と野口館

安積家は、野口館（中世から現代に至るまでの野口町中世館跡の敷地）に代々居住してきた一族です。当主は安積清右衛門を名乗り、江戸時代は野口村の庄屋を務め、多くの土地を所有し小作人を抱えていました。明治時代には村長を務め、医院を開業した、蘇原地域の名士でした（写真1）。

写真1　安積医院を移築した蘇原熊田町の平蔵寺

市に寄贈された「安積家文書」に含まれる系図は、慶長3年（一五九八）に没した安積忠左衛門尉純昌から始まっています（写真2）。「安積家文書」には、天正17年（一五八九）に作成された検地帳、慶長5年（一六〇〇）に発給された禁制など、近世初期の文書も含まれます。安積家は遅くとも戦国末期～江戸初期より、野口館に住み続けてきたと考えられます。

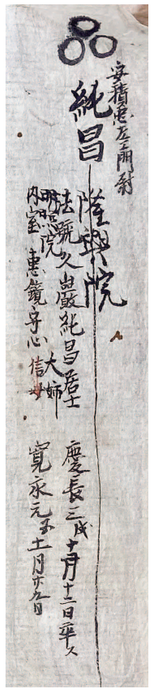


写真2 安積家系図（部分）

系図には、分家は「土佐家中」と記されています。土佐藩士の系図をまとめた『御侍中先祖書系図牒』（高知城歴史博物館所蔵）を見ると、80石の藩士安積家が載っています。初代の安積左内良政の生国は美濃であり、掛川城主時代の山内一豊に仕え、土佐藩士となったことが記されています。土佐安積家は幕末まで存続し、野口村の安積家当主が早逝した際には土佐から養子を出すなど、関係は江戸時代を通して続きました。

安積家にゆかりの文化財として、加佐美神社の「獅子頭」があります（写真3）。この獅子頭には、「おししさま」と呼ばれる伝承があります。ある時、各務野に立っている大きな松に獅子頭が乗っていました。安積清右衛門は獅子頭を屋敷に連れて帰り、お酒やごちそうで手厚くもてなしました。清右衛門は獅子頭の「加佐美の神にお仕えしたい」という願いを聞いて、加佐美神社へ奉納した、という伝承です。安積家は、神的な存在と対話できる、特別な家柄として扱われていました。

写真3　加佐美神社の獅子頭

また、現在鵜沼宿にある旧大垣城鉄門（写真4）も安積家と関係があります。明治5年（一八七二）、大垣城の城門が解体され、部材が加納宿で売りに出されていたところ、安積家が一括して購入し、自宅に移築しました。門は平成20年に各務原市に寄贈され、鵜沼宿に移築されました。

写真4　旧大垣城鉄門

庄屋を務め、武家を輩出し、古文書や城門、伝承を残した名士・安積家。その威厳を現代まで示し続けたのが、野口館だったのです。

（長谷 健生）

古代の銅製権と羊形硯

令和7年度の発掘調査では、注目すべき古代の遺物が2点出土しました。いずれも8世紀（奈良時代）のもので、全国的に出土例が少なく非常に貴重な遺物です（写真1）。

それぞれの遺物が、なぜ鵜沼と蘇原で出土したのか、その理由を考えると、地域の古代史がより鮮明になります。

写真1　羊形硯の一部（左）と銅製権（右）　西アジアや中国では羊が霊獣として崇められました。

古代の銅製権

令和7年8月、真名越遺跡（鵜沼真名越町）の発掘調査で、2号竪穴住居跡の位置から銅製の遺物が出土しました。キノコのような形をしたこの遺物は、手に取ると重く、私たちが初めて見るものでした。

調べていくと、権と呼ばれる古代の錘であることが分かりました。銅製権の出土は、全国でも数例しかなく非常に貴重です。権は、天秤ばかりに載せるのではなく、竿ばかりの片方に吊り下げて使用されました。

さらに、銅製権は錘の基準（見本）となる重要なもので「様」とも呼ばれます。大宝元年（七〇一）に制定された大宝律令では、度量衡（長さ・体積・重さ）の基準が定められ、全国的な統一が図られました。そのために、「様」が中央から地方の役所へ配布される必要があったと思われます。

この銅製権は、幅約3.5㎝、高さ約3.4㎝、重さ約100gです。さほど重くはありませんが、竿ばかりに付けることで、約2.5kgまでの計量が可能です。形は「花弁状笠部」と呼ばれ、8枚の花弁が笠（被り物）を覆うような形状をしています。なお、底部は平らです。

古代の羊形硯

同年10月、野口町中世館跡（蘇原野口町）の発掘調査で、戦国時代に造られた館の堀から、須恵器製の羊形硯の一部が出土しました。羊形硯とは、粘土で造形した羊の頭が付いた硯のことです。この遺跡の下層には奈良時代の遺跡が重複していますので、羊形硯は8世紀（奈良時代）のものと考えられます。

硯があるということは、筆で文字を書いたことを意味します。しかし、日常生活で文字を使う機会は少なかったことから、硯は役所や寺院跡等に限って出土する傾向があります。ただし、そこから出土する硯は、丸い形をした円面硯が一般的です。

羊の顔が付いた羊形硯は、主に平城宮や斎宮などの宮跡や一部の役所跡から出土しますので、特別な政や行事に使用されたと思われます。本来、羊は日本に生息せず、6世紀頃に朝鮮半島の百済から贈られたといわれます。当時、希少だった羊の顔をデザインした硯が、地方の遺跡から出土することに注目されます。

羊形硯は、羊の顔をリアルに造形しているわけでなく、可愛らしくデザインしています。宮跡から出土する羊形硯は、どれも同じような顔立ちをしていますが、少しずつ違いがあります。各務原市で出土した羊形硯は、平城宮跡で出土したものに瓜二つです（写真2）。

本市の羊形硯は、粘土や焼き方の特徴から美濃須衛窯（各務原市を中心に分布する古窯跡群）産であると考えられます。ここで焼成されたものが、宮殿等へ出荷されていた可能性が出てきました。平城宮跡の羊形硯は他の窯産であるようですが、ここまで形が似ているのは、複数の窯元で製作技法が共有されていたからだと考えられます。

なぜ鵜沼と蘇原か

最後に、なぜこのような特別な遺物が鵜沼と蘇原で出土したのかを考えてみたいと思います（図1）。

銅製権が出土した真名越遺跡は、古代東山道の各務駅推定地の近くに位置します。また、木曽川が近く、市場や渡船場でも賑わいました。物流が盛んで、多くの取引が行われていたと思われ、公認の計量器が必要だったと推定されます。

一方、羊形硯が出土した野口町中世館跡は、各務郡衙（郡役所）や蘇原古代寺院群が近接します。このあたりは、古代各務郡の中枢部でした。

このように、両遺物の出土地点は当時の重要な公的機関のすぐ近くに位置します。東山道で結ばれる各務郡衙と各務駅の両地点は、例えば蘇原本庁と鵜沼支所のような、古代の行政拠点だったのです。以上のことを踏まえると、この二つの遺物が鵜沼と蘇原の遺跡から出土したことに頷けます。

（西村 勝広）

写真2　平城宮跡出土の羊形硯
（奈良文化財研究所提供）

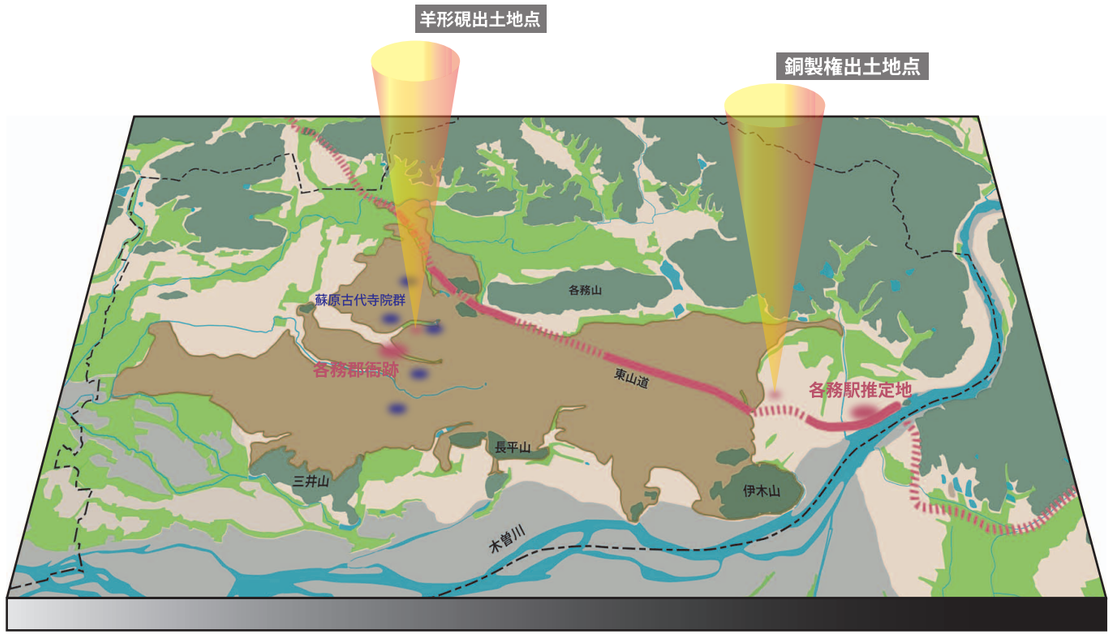


図1 羊形硯と銅製権の出土地点

各務郡衙は、広畑野口遺跡の発掘調査成果から位置が明らかになってきました。周辺には蘇原古代寺院群が分布します。各務駅は、西の方県駅（岐阜市）と東の可児駅（御嵩町）から間隔が16 kmとなる地点、現在の鵜沼南町あたりと推定されています。

岩地遺跡発掘調査速報

那加地域の古代集落

岩地遺跡は、那加土山町から岩地町にかけて広がる集落遺跡です。今回の発掘調査は、（都）日野岩地大野線道路改良事業に伴い、令和7年7月から9月にかけて実施しました。弥生時代から古代、中世にわたる幅広い年代の遺構・遺物を確認しました。

竪穴住居跡から出土する土器

本調査では、地表面を一段深く掘り下げた半地下式に造られる方形状の竪穴住居跡が、11～12基重複して確認されました。いずれも規模は、1辺3～4mほどです（図1）。住居跡からは須恵器（陶質土器）や土師器（素焼きの土器）、灰釉陶器が出土しており、その型式からいずれも8～9世紀のものが多数を占めていると考えられます（写真1）。

写真1　土師器の出土状況

図1　岩地遺跡遺構略図

市域北部の山間部には、美濃須衛窯跡が密集しており、須恵器生産が盛んに行われていました。市域の古代集落では最も出土する遺物であり、一般庶民にも広く普及していた日常雑器でした。生産地から集落遺跡へ、人々の往来があったことが分かります。

市域にみる古代集落の再編成

これまでの発掘調査により、蘇原地域や鵜沼地域を中心に奈良～平安時代にかけての集落遺跡が広く確認されています。とくに、8世紀に入ると、各遺跡で竪穴住居跡が増加する傾向にあるようです。つまり、古代各務郡では、8世紀頃に人口の増加があり、地域の発展があったのではないかと推定しています。その背景には、須恵器生産の本格化のほかに、「古代東山道」の整備があったのではないかと考えています。

東山道とは、古代の官道のひとつです。中央（都）と地方を行き来する官道は、地方を統括する上で重要な役割を果たしました。東山道のルートに美濃国各務郡の通過（図2）が想定されており、実際にルート周辺から古代集落が確認されています（広畑野口遺跡、鵜沼古市場遺跡など）。国家が新たに道路を整備することにより、集落の解体・統合といった「地域の再編成」があったのではないかと考えます。岩地遺跡で確認できた集落はまさにその一例ではないかと考察します。

（三浦 薫平）

図2　古代集落と東山道

市庁舎2階の東側通路の壁面に設置された展示スペース、通称「アートウィンドウ」では、年間を通して、市の所蔵作品や絵絹を使った作品を展覧会形式で公開しています。令和7年度からは、市にゆかりのある作家の作品を借用して紹介する企画展を始めました。

初回は「各務原市美術展 彫刻・工芸の部」の彫刻担当であり、市美術展発足当時から審査員や運営委員として関わられた三輪乙彦氏の作品を遺族のご協力のもと展示し、アートウィンドウ初の立体作品の展示を行いました。

市美術展では、平成2年（一九九〇）から平成17年（二〇〇五）の間は、三輪氏制作の《少女》像を元にブロンズ像を作成し、市展賞で授与されていました。本展では、《少女》像の他にも、ブロンズや桂の木、アラバスター（白色系半透明の鉱物）を素材として用いた作品を展示し、三輪作品の作風の一端を紹介しました。

三輪氏は、市立鵜沼中学校（一九六四 - 一九七一）、那加中学校（一九七一-一九七九）、中央中学校（一九七九-一九八五）、緑陽中学校（一九八五-一九八七）で美術の教鞭をとりました。作品制作に対する熱意は、課外指導にも表れていました。

本市が所蔵する三輪氏の作品は、本庁舎1階の西側入口に《黎明の人村國男依》、《母子像》、市民公園内に《遠藤儀作翁》があります。

今後、アートウィンドウでは、ジャンルにこだわらず各務原市に関係する作家や作品を、企画展として順次紹介していく予定です。（廣江 貴子）

Miwa Otohiko(1930-2021)

東京都生まれ。戦禍を免れるため、父方の地元の岐阜市に戻ります。昭和22年（1947）、彫刻家・中村輝氏に師事し、昭和 27 年の日本美術院展に初出品・初入選。一陽展は昭和31年の第２回から平成28年（2016）まで毎年出品しました。

市内の中学校で教鞭をとる傍ら、各務原市美術展の審査員として、逝去される令和３年（2021）まで、本市の文化芸術の振興に深く寄与されました。

《少女》

百科 事業報告

令和７年度　各務原市歴史民俗資料館 企画展

第２回　@えぎぬ展

会期 / 令和7年11月1日～11月24日　会場 / 中央図書館3階 展示室A・B

各務原市内では、絵を描く素材として使用される「絵絹」（平織の絹織物）の製織を、僅かに残った織元が賄っています。全国の生産量のほぼ１００％を占める市内生産の絵絹の紹介と、絵絹を文化資産として守り伝えていくために、県内外の作家が絵絹を使用した作品を紹介する「第２回 @えぎぬ展」を開催しました。

この、県内の文化資産に着目した企画展は、主催を「岐阜県文化を切り口とした地域活性化プロジェクト実行委員会」、共催は本市の教育委員会で組織しました。昨年より多い21人の作家の絵絹作品を通して伝統文化の未来を考え、新しい文化を創造する場を創出しました。

会期中には、墨を用いて、絵絹を貼った大型の扇面作品を皆で完成させる参加型ワークショップ（写真１）や、作品をより深く鑑賞するためのアーティストトーク（写真２）を開催。まちづくり推進課の事業と相互に連携するなど、参加者と共に作り上げる展覧会を意識しました。来場者数は１３５８人を数え、絵絹を広く周知し活用するという目標を達成できました。来場者からは、絵絹作品の素晴らしさや、地元産業を知るきっかけとなったことなど、様々な感想をいただきました。

また、市内に残る２軒の絵絹織元と語る「えぎぬフォーラム」（写真３）を開催することで、参加者と織元が「アート×産業」から始まった「えぎぬプロジェクト」のこれまでとこれからについても共有することができ、絵絹を未来に残していくためにどうすべきかを、みんなで考える場となりました。

職人の高齢化や後継者不足、絵絹使用者の減少が招く販路縮小、原材料や道具類の枯渇は、やがて古画の修復など絵絹が関係する文化そのものの消滅に繋（つな）がります。伝統を絶やしてはいけないという危機感をより多くの人に共有してもらうため、活動を継続していきます。（廣江 貴子）

出展作家（五十音順）

宇城 翔子・遠藤 泉女・大嶋 直哉
加藤 千奈・加藤 正晴・上村 俊明
川﨑 麻央・川島 睦郎・河田 美奈枝
河村 尚江・蔵田 美和・鈴木 葉留香
武田 裕子・永岡 郁美・福田 季生
松原 亜実・京都 絵美・向井 大祐
安井 彩子・山本 真一・横山 奈月

写真２　アーティストトーク

展示室Ｂ「みんなでつなぐ物語②」

写真１　ワークショップ

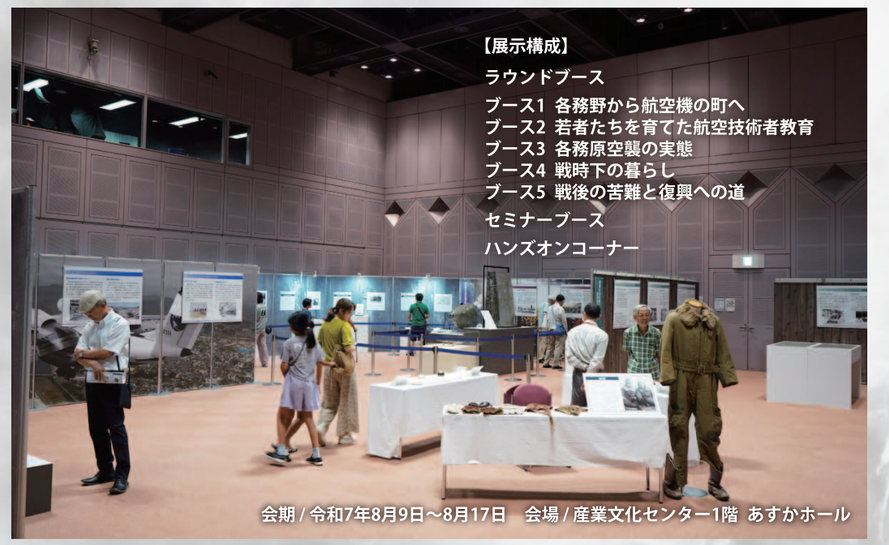
写真３　えぎぬフォーラム

展示室Ａ　掛軸や屏風など35点の作品を展示

令和7年度 歴史民俗資料館 特別企画展
戦後80年 各務原市と太平洋戦争 ～風化させない戦争の歴史～

歴史民俗資料館では、戦後50年、60年、70年の節目の年に企画展を開催してきました。戦後80年の今年も、戦争や空襲の事実を風化させず、現在の各務原市に繋がる歴史として市民に考えてもらう機会となるよう、産業文化センターあすかホールにて特別企画展を開催しました。

新たな試みとして、ハンズオンコーナーを設けました。来場者は、飛行服や陶器製手りゅう弾、木銃などの戦時資料を手に取り、展示解説ボランティアの説明を聞きました。特に飛行服については、令和元年に寄贈を受け、今回初公開した資料です。ゴーグルから靴下・靴に至るまで一式揃っていること、帽子や服の裏地にはうさぎの毛皮が使われていることなどをボランティアが説明しました。触った感想などで来場者と会話が弾んでいる様子がうかがえ、興味を持つきっかけとなるハンズオンコーナーの重要性を感じました。



会期 / 令和7年8月9日～8月17日　会場 / 産業文化センター1階 あすかホール

ブース4

「戦時下の暮らし」では、３人の戦争体験者へのインタビュー動画を上映しました。

市内で収集された砲弾、爆弾の模型、特攻隊員の辞世の句など、各務原の戦時を象徴する11点の資料を展示しました。

ラウンドブース

来場者アンケートより

- 戦時下は学校で勉強するのではなく、軍隊の服のための材料集めや戦う訓練が行われていたことが改めて分かった。(10代)
- この展示を見に来るまで、戦争といったら、沖縄・広島・長崎だと思っていた。けれどもこの展示を今日見に来て、各務原がこんなにたいへんな目にあったことを知った。代々戦争のことをつないでいきたいと思った。つないで、いつか戦争がなくせるといいなと思った。(10代)
- 戦時中の話をする人が少なくなるなかで、こうした企画展を開催することは戦争があったということを伝える点で非常によいと思った。小学生の子どもを連れてきたが、展示も分かりやすく、戦争についていろいろと考えるきっかけになったと思う。(40代)
- 将来を担う子どもたち(小学校、中学校etc)に学校単位で、こういった資料の見学をさせることが必要。若い人たちに自分で戦争について考えさせたいと思う。(80代)

他にも、セミナーブースで毎日、ミニ講演会を開催したり、特別上映として大分県の「豊の国宇佐市塾」から借用した各務原空襲の映像を公開したりするなど、会期中何度も訪れていただけるよう、さまざまなイベントを開催しました。また、企画展に合わせたテーマで歴史セミナーも開講しました。

9日間という短い会期でしたが、1871人もの方にご来場いただきました。新聞、テレビにも多数紹介され、戦時資料に対する関心の高さを実感しました。本展では、若い世代に多くご来場いただけました。過去の企画展の来場者は、60代～80代が圧倒的に多い傾向でしたが、アンケート結果を見ると、10代～50代が半分以上を占め、特に19歳以下の来場者の多さが特徴的でした。

『かかみがはら百科プラス No.10』
（A4・8ページ）
歴史民俗資料館ウェブサイトで
PDF データ公開中

背景写真 / 1945年（昭和20年）6月26日の空襲の様子（国立国会図書館デジタルコレクションより）

第1回	8月9日（土） 「P-51戦闘機撃墜と大戦末期の各務ヶ原飛行場」 福手一義（各務原空襲資料室調査員）
第2回	8月10日（日） 「記録映像から見た各務原空襲」 西村勝広（各務原市文化財課）・福手一義
第3回	8月11日（月・祝） 「親子で戦争を考える、絵本の読み聞かせ上映会」 岡田新吾（絵本作家）
第4回	8月11日（月・祝） 「あの時の記憶～伝承 ・ 各務原の戦時体験～」 小山澄人（空宙博支援ボランティア / 特別アドバイザー）
第5回	8月12日（火） 「キャンプ GIFU から自衛隊岐阜基地へ」 戸﨑憲一（各務原市歴史民俗資料館）
第6回	8月13日（水） 「那加町の昭和20年」 引地歩（各務原市木曽川文化史料館）
第7回	8月14日（木） 「各務原で行われた航空技術者教育」 鷲見隆司（各務原市木曽川文化史料館）
第8回	8月15日（金） 「各務原空襲の実際」 戸﨑憲一
第9回	8月16日（土） 「親子で戦争を考える、絵本の読み聞かせ上映会」 岡田新吾
第10回	8月17日（日） 「記録映像から見た各務原空襲」 西村勝広 ・ 福手一義

セミナーブース ミニ講演会一覧

ブース3

「各務原空襲の実態」では、空襲の様子を再現したイメージ映像を上映しました。

毎日開催のミニ講演会。市文化財課職員の講座の他、絵本作家の岡田新吾氏、郷土史家の福手一義氏、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館アドバイザーの小山澄人氏にも講演していただきました。

セミナーブース

ハンズオンコーナー

陶器製手りゅう弾や木銃などの戦時資料に触れることのできるコーナーを設けました。

今回の企画展に合わせ、「各務原の飛行場・航空機・戦争と人々」をテーマに、全３回の講座を開講しました。

各務原歴史セミナー

戦後80年関連事業として、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（空宙博）に新設された企画棟「スペースボックス」と市役所本庁舎１階の「ヒストリーウィンドウ」で、戦争に関する展示を行いました。

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

「飛行場の町 各務原が育てた技術者と産業」3月22日～6月1日

岐阜コクピットの協力で模型展示

市内小学生の見学

空宙博と歴史民俗資料館が初めてタッグを組んだ企画。令和６年10月にオープンしたばかりの空宙博の企画棟「スペースボックス」において、各務原市の飛行場の町としての歩みをまとめた企画展を開催しました。

今回の展示の目玉として、空宙博が所有する豊富なモニターを使い、さまざまな映像を上映しました。各務原空襲を解説する映像の他、戦時中に各務原で量産された戦闘機「飛燕」が飛行している映像、川崎航空機が作成した岐阜を社員に宣伝する映像、市内の川崎重工が生産する最新鋭の輸送機「Ｃ－２」の映像を上映しました。

戦時中の技能者養成所の教室を再現したコーナーも設けました。当時の教室の壁や床、机を再現し、当時の教科書のコピーを読んでいただけるようにしました。

会期中には、学芸員による展示解説の他、掩体壕に関する講演会、掩体壕での現地説明会も開催しました。また、市内６小学校の見学もありました。特に各務原空襲のコーナーでは、Ｂ-29 爆撃機が飛行場に爆弾を落とす映像に衝撃を受けた子どもも多く、映像展示の持つ力を感じました。

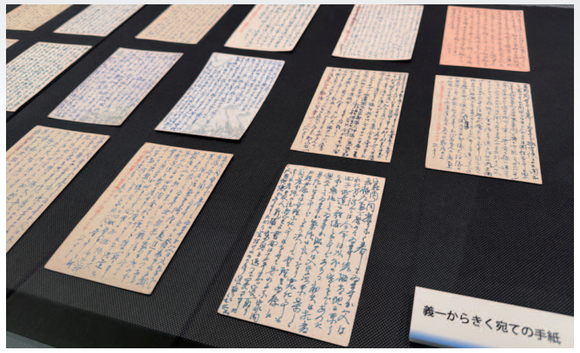
技能者養成所 学科授業（昭和17年）

ブース３　当時の写真をもとに教室を再現

【展示構成】
ブース1 農村から飛行場のある町へ
ブース2 各務ヶ原飛行場と町の変化
ブース3 若者たちを育てた航空技術者教育
ブース4 各務原空襲
ブース5 新しい航空機産業の町へ

ヒストリーウィンドウ

「戦地からの手紙」3月21日～6月27日


義一からきく宛ての手紙

航空機の整備士としてジャワ島で任務に就いていた太塚義一から、妻と４人の息子たちへ宛てた手紙44 通を展示しました。

遠いジャワ島からの手紙に記された家族への愛、各務ヶ原飛行場から各地に派遣された技術者の生きざまを紹介する展示としました。

「蘇原国民学校の子どもたち」6月30日～9月26日

蘇原国民学校（現在の蘇原第一小学校）の学校日誌を展示しました。日誌からは、「紀元節」などの四大節をはじめとする儀式的行事、銃後を護る少国民としての勤労奉仕活動、国民学校における学徒勤労動員など、当時の子どもたちの学校生活がうかがい知れます。郷土で行われた、戦時下の教育について知ってもらえる展示となるよう心掛けました。

戦争を歴史として未来へ

明治時代まで農村地帯であった各務原市域は、大正時代に飛行場ができたことで、「空都」と呼ばれるほど発展しました。しかし、飛行場があったがゆえに、空襲で狙われ、多くの方が亡くなりました。戦後、各務原の航空機産業は復活し、現在も航空機は各務原市のシンボルとなっています。

「戦後80年展」に、蘇原国民学校へ焼夷弾が落ちたことを覚えていらっしゃる方など、戦争を経験した方もご来場いただきました。今後、戦争体験者は減っていき、体験を直接聞く機会はなくなっていきます。戦争の「記憶」は「歴史」へと変わっていきます。

戦時資料は、戦争の記憶を文字として、モノとして感じることができる重要な資料です。「戦後80年」の活動を通じて、戦時資料を豊富に所蔵していることが、市歴史民俗資料館の強みであると再認識しました。この強みを活かし、今後も節目の年には戦時資料を扱った企画展を開催していきたいと考えています。

今こそ、私たち市民一人一人が、飛行場のまち各務原市・戦争について学び、歴史として未来に伝えていく時です。

（長谷 健生）

関連書籍

資料調査報告書 第40号
『各務原市の戦前・戦中・戦後史』
平成28年発行（令和７年重版）

企画展「戦後 70 年 明日の各務原へ」に併せて刊行した報告書。米国の情報公開資料から判明した新事実、初公開の写真などを紹介。

資料調査報告書 第45号
『各務原市に残る戦時資料』
令和８年３月発行

戦前のアルバムや戦時中の手紙など、各務原市に残る飛行場・戦争関係の資料を紹介。近年新たに調査した、航空自衛隊岐阜基地広報館に保管されてきた資料も掲載。

戦国の鵜沼城主 大沢次郎左衛門

写真1　木曽川左岸から城山を望む

大沢次郎左衛門は、戦国時代、鵜沼城の城主であったとされる武将です。令和8年のNHK大河ドラマ『豊臣兄弟！』でも、木下藤吉郎秀吉の調略を受ける武将として登場しました。しかし、その生涯については、詳しく分かっていません。各務原市ゆかりの戦国武将・大沢次郎左衛門の正体に迫ります。

信長の美濃攻略と鵜沼城

鵜沼城は、JR鵜沼駅の南側、犬山橋の北のたもとにある城山にあったとされる城です（写真1）。標高95m、木曽川に面し、四方は断崖絶壁です。

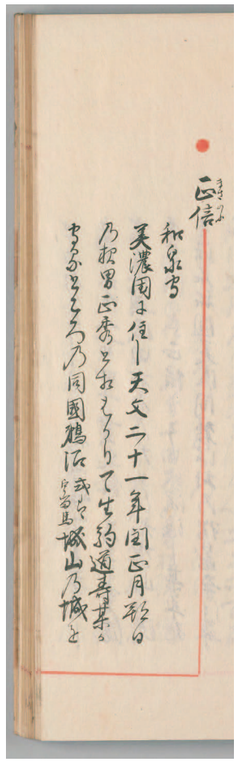
永禄8年（一五六五）、織田信長は木曽川を越えて美濃国に攻め込みました。『信長公記』には、信長の美濃最初の攻略目標は、斎藤龍興に味方する鵜沼城・猿啄城（現坂祝町）であったこと、信長は木曽川のほとりの伊木山に砦を築いて美濃への足掛かりにしたこと、鵜沼城を守りきれないと判断した大沢次郎左衛門が降伏したことが記されています。

『太閤記』の大沢次郎左衛門

江戸時代に記された豊臣秀吉の一代記である『太閤記』には、織田信長による美濃攻略の折、秀吉が鵜沼城主・大沢次郎左衛門を調略したというエピソードが記されています。大沢の調略に成功した秀吉は、信長に会わせるため、大沢を清須城に連れていきます。大沢との面会を終えた信長は、「大沢は勇猛な武将、また裏切るかもしれない、殺せ」と秀吉に命じます。秀吉は、「敵地の武将で味方になってくれたのは、大沢が初めてである。これを殺してしまえば、今後敵を調略することができなくなる」と反対します。しかし信長が聞き入れなかったため、秀吉は一計を案じ、自ら大沢の人質となることで大沢を無事に逃がすことに成功した、というエピソードです。

『寛政重修諸家譜』の大沢氏

江戸時代に作成された幕府公式の系図である『寛政重修諸家譜』（資料1・以下『寛政譜』）では、大沢次郎左衛門の家系は父・和泉守正信の代から始まっています（図1）。正信は



資料1　『寛政重修諸家譜』（173巻　国立国会図書館デジタルコレクション）

図1　大沢氏系図（寛政重修諸家譜を要約）

正信――和泉守
- 美濃国に住す
- 斎藤道三に仕える
- 鵜沼城を攻め落とす
- 道三から領地を与えられる
- 斎藤龍興と共に流浪する
- 法名祐圓
- 鵜沼村瑞泉寺に葬る

正秀――次郎左衛門
- 鵜沼城に住す
- 秀吉の調略を受ける
- 豊臣秀次に仕え2600石
- 流浪し美濃・小田原に住す
- 76歳で没す
- 相模国萬松院に葬る
- 妻は道三の娘

正重……又三郎、次郎左衛門
- 母は道三の娘
- 慶長年中に旗本になる
- 下総国に650石余
- 大坂の陣に供奉
- 寛永2年に41歳で没す
- 相模国萬松院に葬る

写真2　三ツ塚全景（鵜沼羽場町）

写真3　大沢正秀・正重の墓（小田原市萬松院）

斎藤道三に味方する武将であり、天文21年（一五五二）に鵜沼城を攻め落とし、城主となったことなどが記されています。

鵜沼羽場町、にんじん選果場の北側に「三ツ塚」と呼ばれる場所があります（写真2）。中央の塚には「大沢和泉守　法名月窓祐圓信士　永禄五年八月日」と刻まれた石碑が立っています。法名から和泉守正信の墓碑と思われますが、『寛政譜』の内容と合わない部分があります。

正信の息子・次郎左衛門正秀については、妻は斎藤道三の娘であったこと、鵜沼城主として秀吉の調略を受けたこと、豊臣秀次（秀吉の甥）に仕えたこと、流浪して相模国小田原の萬松院で没したことなどが記されています。現在小田原市の萬松院には、大沢正秀・正重の墓があります（写真3）。正秀の息子・正重は旗本となり、上総国・下総国に合わせて856石の領地を持つ家として幕末まで続いています。

大沢氏の「子孫」

犬山市の大澤山本龍寺（写真4）には、大沢氏の系図などの文書があります。しかしその内容は、『寛政譜』とは大きく異なっています。また、犬山市や各務原市には大沢氏の「子孫」が多くお住まいですが、旗本となった大沢氏とはまた違った由緒を持っているようです。

鵜沼城主大沢氏の「子孫」は他にも、山梨県笛吹市や埼玉県富士見市、大阪府岸和田市など全国各地に点在しています。おそらく、江戸時代以降『太閤記』などの物語で鵜沼城主大沢次郎左衛門が有名になり、全国の大沢姓の人々が自らの祖先として鵜沼城主大沢氏をよりどころとした、と考えられます。

（長谷 健生）

写真4　大澤山本龍寺（犬山市）

■企画展

●特別企画展「戦後80年 各務原市と太平洋戦争 ～風化させない戦争の歴史～」
会　期／8月9日(土)～8月17日(日)
会　場／産業文化センター1階 あすかホール
来場者／1871人

●「第2回@えぎぬ展」
会　期／11月1日(土)～11月24日(月・振休)
会　場／中央図書館3階 展示室A・B
来場者／1358人

(関連講演会)
アーティストトーク
作　家／①遠藤泉女・福田季生
　　荻谷成彦(荻周株式会社)
　②大嶋直哉・武田裕子・荻谷成彦
　③上村俊明・山本真一
　　森美津子(モリカツ織物)
開催日／①②11月8日(土)
　　③11月15日(土)
会　場／中央図書館4階 多目的ホール
受講者／①15人　②27人　③39人

えぎぬフォーラム
登壇者／荻谷成彦・森美津子
参加者／45人

(ワークショップ)
「みんなでつなぐ物語②」
開催日／会期中随時
会　場／中央図書館3階 展示室B

●パネル展「小島三郎」
◇伝染病研究者・小島三郎について、令和2年の「小島三郎展」で掲示した解説パネルで紹介した。
会　期／令和8年1月31日(土)～3月1日(日)
会　場／川島会館2階ロビー

■岩地遺跡発掘調査現地説明会
◇市道建設工事に伴う発掘調査を実施。8～9世紀の竪穴住居跡や須恵器が出土、地元自治会の方々を対象に説明会を開催した。
開催日／9月20日(土)
参加者／25人

■野口町中世館跡発掘調査現地説明会
◇戦国時代の館跡の発掘調査を実施。土塁・堀の構造や近世・近代の改修が確認され、出土遺物とともに公開した。
開催日／12月6日(土)
参加者／366人

■洞ひさご塚古墳発掘調査現地説明会
◇民間開発に伴う発掘調査を実施。調査により墳丘の下部が検出され、前方後円墳であることを確認、公開した。
開催日／令和8年3月7日(土)
参加者／240人

■ヒストリーウィンドウ
会　場／市役所本庁舎1階 展示コーナー
①「戦地からの手紙」
会　期／3月21日(金)～6月27日(金)
②「蘇原国民学校の子どもたち」
会　期／6月30日(月)～9月26日(金)
③「聖観音菩薩立像」
会　期／9月29日(月)～12月19日(金)
④「鵜沼の山城～伊木山城と鵜沼城～」
会　期／12月22日(月)～令和8年3月19日(木)

■アートウィンドウ
会　場／市役所本庁舎2階 展示コーナー
①かかみがはら@えぎぬⅧ
「大嶋直哉展 -「絵」との距離 縁起よき「絵」-」
会　期／3月24日(月)～5月30日(金)
②かかみがはら@えぎぬⅨ
「南谷具代展 -絵絹に描く-」
会　期／6月2日(月)～8月1日(金)
③「三輪乙彦展」
会　期／8月4日(月)～9月26日(金)
④「坪内節太郎展 -芝居絵より-」
会　期／9月29日(月)～12月19日(金)
⑤「横山春溪展 -はつはる-」
会　期／12月22日(月)～令和8年3月19日(木)

■各務原歴史セミナー
◇特別企画展に合わせて「各務原の飛行場・航空機・戦争と人々」をテーマに全3回の講演会を開催した。
①「各務ヶ原飛行場の礎
　～フランス航空教育団と各務原～」
　講　師／鈴木真二(東京大学名誉教授)
　　あいち航空ミュージアム館長)
開催日／7月26日(土)
会　場／中央図書館4階 多目的ホール
受講者／62人

②「各務原市の航空機産業が歩んだ道
　～焼野原から復興への軌跡～」
　講　師／水嶋源司(川崎重工業株式会社航空宇宙システムカンパニー)
開催日／8月9日(土)
会　場／産業文化センター2階 第3会議室
受講者／67人

③「戦時下の紙芝居 戦意高揚と庶民の戦争
　～各務原市を事例に～」
　講　師／大串潤児(国立歴史民俗博物館教授)
開催日／8月30日(土)
会　場／中央図書館4階 多目的ホール
受講者／40人

■まいぶん講演会
「木簡」から読み解く古代各務郡」
◇奈良県藤原宮跡から出土した各務評(郡)に関する木簡から、地方制度について学んだ。
　講　師／近藤大典(岐阜県博物館人文係長)
開催日／令和8年2月28日(土)
会　場／中央図書館4階 多目的ホール
受講者／37人

■夏休み子ども講座
●「各務原の遺跡を学ぼう」
◇市内の遺跡を地図で探したり、土器や石器に触れて古代の各務原を学んだ。
開催日／7月30日(水)
会　場／中央図書館4階 研修室
受講者／9人

●「作ってみよう！古代の工芸品 勾玉」
◇市内で見つかる勾玉を実際に自分の手で作り、古代のモノづくりや生活文化を学んだ。
開催日／7月31日(木)
会　場／中央図書館4階 研修室
受講者／19人

■文化財一斉公開
◇「中山道鵜沼宿まつり」に合わせ、鵜沼宿周辺の登録有形文化財(建造物)の公開を行った。
開催日／11月16日(日)
場　所／鵜沼宿 坂井家住宅ほか
来場者／322人

■かかみがはら寺子屋事業
「オオサンショウウオ調査隊2025」
◇木曽川に生息する特別天然記念物「オオサンショウウオ」を調査し、生態などを学んだ。
開催日／11月2日(日)
場　所／木曽川河川敷
受講者／30人

■「文化財防火デー」防災訓練
開催日／令和8年2月8日(日)
場　所／川崎山薬師寺
参加者／40人　※降雪のため中止

■各務原野外セミナー
●「伊木山から鵜沼城を望む！」
◇伊木山山頂とキューピーの鼻展望台で、伊木山城・鵜沼城の歴史を解説した。
開催日／令和8年3月7日(土)
場　所／伊木山
受講者／89人

■各務原市史編さん委員会
◇現在執筆・編集中の各務原市史(現代Ⅱ)について、進捗・刊行後の資料編さんなどを審議した。
開催日／12月11日(木)
会　場／産業文化センター6階 第1会議室

■講座事業
●「古文書講座(初級)」
◇江戸時代の古記録『武家教訓 全』などを使い、古文書読解の基礎を学習した。
開催日／6月～令和8年1月(第1土曜日・全8回)
会　場／那加福祉センター 学習室
受講者／15人

●「埋蔵文化財調査センターレギュラー講座」
・勾玉づくり／9回・18人

■古文書ボランティア目録作成事業
◇市民ボランティアを募り、近年寄贈された「永田家文書」の解読・整理・目録化を行った。(全21回)
会　場／那加福祉センター 学習室
参加者／14人

■寄贈・寄託 資料／作品
(寄贈)
・前渡奥村家文書　10点
・各務原市域出身の特攻隊員 関係書籍　3点
・岐阜大学農学部絵葉書　4点
・出征旗　1点
・戦争関係資料　66点
・灰釉陶器 須恵器片など　3690点

■刊行物
『資料調査報告書第40号 各務原市の戦前・戦中・戦後史』(2016年発行・重版)
『資料調査報告書第45号 各務原市に残る戦時資料』
『各務原市史 通史編 現代Ⅱ』

■来館者数
○歴史ギャラリー(中央図書館3階)　6252人
○木曽川文化史料館(川島会館4階)　1357人
※令和8年2月末現在

■学校関連事業

No.	日	学校名	内 容	人数
1	4月21日 23・24日	鵜沼第二小学校 3年生	空宙博企画展見学	102
2	5月2日	稲羽西小学校 5年生	空宙博企画展見学	50
3	5月26日 27日	中央小学校 3年生	空宙博企画展見学	65
4	5月28日	陵南小学校 3年生	空宙博企画展見学	56
5	5月28日	鵜沼第一小学校 6年生	坊の塚古墳・衣裳塚古墳見学	114
6	5月29日	川島小学校 4年生	川島の成り立ち	145
7	6月3日	鵜沼第二小学校 6年生	坊の塚古墳・鵜沼宿見学	109
8	6月5日	鵜沼第二小学校 3年生	炉畑遺跡公園見学	100
9	6月13日	鵜沼第三小学校 3年生	村国座見学	116
10	7月3日	川島小学校 4年生	木曽川文化史料館見学	146
11	9月3日	中央小学校 3年生	文化財ってなんだろう	67
12	9月10日	土岐市立泉西小学校 5年生	炉畑遺跡公園見学	49
13	10月2日	桜丘中学校 1年生	各務原市の歴史について学ぼう	30
14	10月21日	稲羽東小学校 3年生	各務原と戦争	20
15	10月23日	岐阜市立加納小学校 5年生	鵜沼宿見学	9
16	11月5日	陵南小学校 6年生	各務原の古墳	75
17	11月11日	尾崎小学校 6年生	京都・奈良についての学習	28
18	11月12日	岐阜市立長森南小 1年生	歴史ギャラリー見学	105
19	11月13日	川島小学校 4年生	小島三郎	131
20	11月14日	陵南小学校 6年生	坊の塚古墳、衣裳塚古墳見学	75
21	11月19日	蘇原第一小学校 3年生	道具とくらしの移り変わり	135
22	11月19日	中央小学校 3年生	村国座見学	64
23	11月22日	那加第二小学校 5年生	戦後80年 戦中・戦後・現在の平和について	100
24	11月27日 28日	鵜沼中学校 1年生	村国座・天狗谷遺跡・鵜沼宿見学	162
25	12月3日	那加第三小学校 3年生	村国座見学	90
26	12月4日	那加中学校 1年生	炉畑遺跡公園・村国座・鵜沼宿見学	78
27	12月8日	各務小学校 3年生	村国座見学	25
28	12月11日 12月12日	中央中学校 2年生	職場体験学習	4
29	12月16日	鵜沼第三小学校 3年生	鵜沼のむかし	115
30	12月16日	稲羽東小学校 3年生	矢熊山掩体壕見学	20
31	12月26日	鵜沼第三小学校 3年生	鵜沼宿見学	115
32	1月27日	鵜沼第三小学校 3年生	昔の道具とくらしのうつりかわり	115
33	1月30日	鵜沼中学校 1年生	「調べ学習」の発表の評価	160
34	2月12日	川島小学校 4年生	私たちのくらしと伝統産業 ～各務原の絵絹産業	131
35	3月3日	那加第二小学校 3年生	市と人々のくらしのうつりかわり	72
36	3月3日	尾崎小学校 3年生	昔の道具とくらしのうつりかわり	26
37	3月4日	鵜沼第二小学校 3年生	昔の道具とくらしのうつりかわり	94

①鵜沼中学校「村国座・天狗谷遺跡・鵜沼宿見学」
②かかみがはら寺子屋事業「オオサンショウウオ調査隊 2025」
③陵南小学校「坊の塚古墳・衣裳塚古墳見学」
④中央小学校「文化財ってなんだろう」

■出前講座・職員講師派遣

No.	日	団体等	内 容	人数
1	4月9日	山県古文書勉強会	歴史ギャラリー・大牧1号墳見学	7
2	4月12日	(株)国際交流サービス	美濃・尾張の古墳を訪ねて	20
3	4月19日	濃尾・各務原地名文化研究会	誰も知らない各務ヶ原飛行場の歴史	130
4	4月23日	西ライフデザインセンター	地形の成り立ち	40
5	4月26日	岐阜かかみがはら 航空宇宙博物館	各務原と飛行場の歴史が詰まった山前渡不動山見学ツアー	20
6	4月29日	岐阜かかみがはら 航空宇宙博物館	空宙博企画展　ギャラリートーク	30
7	5月3日			20
8	5月10日	岐阜かかみがはら 航空宇宙博物館	各務原と飛行場の歴史が詰まった山前渡不動山見学ツアー	13
9	5月14日	西ライフデザインセンター	水田開発の労苦	35
10	5月16日	ライフカレッジ稲羽西	蓑虫山人と各務原	51
11	5月17日	各務原歴史研究会	各務原市の弥生時代	62
12	5月20日	ライフカレッジ稲羽東	蓑虫山人と各務原	27
13	5月23日	ライフカレッジ川島	蓑虫山人と各務原	55
14	5月25日	岐阜かかみがはら 航空宇宙博物館	船のまちと飛行機のまち～違うけど似ている呉市と各務原市　パネルディスカッション	73
15	5月28日	西ライフデザインセンター	木曽川の治水	38
16	5月30日	歴史の里マイスター (志段味ボランティア)	坊の塚古墳・衣裳塚古墳見学	15
17	6月11日	西ライフデザインセンター	各務野を旅する	40
18	6月18日	東ライフデザインセンター 一期一会	江戸時代の各務原旅日記	40
19	6月18日	ライフカレッジ蘇原	各務原空襲から80年	50
20	6月21日	JAぎふ東部営農経済センター	御膳籾について	135
21	6月25日	西ライフデザインセンター	飛行場が生んだ歴史	40
22	6月27日	ボランタリーハウス　ぱじ東風	まちの文化財を知る・守る	30
23	7月5日	羽島市 危機管理課	木曽川文化史料館見学	15
24	7月11日	ふるさと楽会	各務原の城 その歴史的意義を考える	30
25	7月18日	名城大学 新鵜沼駅周辺再開発ゼミ	新鵜沼駅周辺の歴史について	42
26	7月19日	中央ライフデザインセンター	各務原の城 その歴史的意義を考える	103
27	7月24日	夏季教職員研修	各務原の城 その歴史的意義を考える	65
28	8月3日	かかみがはらキッズ ラーニングセンター	考古学・発掘調査について	5
29	8月20日	各務原市中学校教員研修	各務原の歴史	30
30	8月29日	岐阜県歴史資料保存会	皇女和宮の中山道通行	70
31	9月11日	中央町ひまわり会	川重の歴史と飛行機の歴史	25
32	9月20日	各務原市PTA連合会	各務原市元気まつり 絵絹体験	60
33	10月1日	岐阜県博物館協会もの部会	民具を学ぶ研修会	18
34	10月1日	西ライフデザインセンター	飛行場の話	30
35	10月10日	中央ライフデザインセンター	縄文土器の魅力	50
36	10月15日	西ライフデザインセンター	小中学校の変遷	28
37	10月18日	濃尾・各務原地名文化研究会	伊木清兵衛の複雑な立場	100
38	10月23日	西ライフデザインセンター	中山道と江戸時代の旅	40
39	10月25日	新発見！考古速報2025 岐阜県発掘調査報告会	鵜沼古市場遺跡C地区	94
40	11月7日	中央ライフデザインセンター	古代各務郡衙の推定地	50
41	11月9日	つつじが丘連合自治会	鵜沼の歴史	35
42	11月12日	西ライフデザインセンター	志賀重昂と日本ライン	30
43	11月15日	各務原歴史研究会	横山忠三郎と各務用水	50
44	11月30日	鵜沼南町住みよいまちづくりを考える会	各務原が生まれる ～村國男依と各務氏へ～	35
45	12月26日	中央ライフデザインセンター	幕末の中山道	30
46	12月26日	個人	大牧1号墳見学	3
47	1月9日	ふるさと楽会	古代の各務郡	32
48	1月10日	個人	大牧1号墳見学	2
49	1月16日	中央ライフデザインセンター	幕末の各務原	44
50	1月18日	小学生米国(グアム) 派遣事業	平和学習	8
51	1月20日	市教育センター初任者研修	各務原市の歴史的魅力を知る	23
52	2月6日	中央ライフデザインセンター	濃尾地震	38
53	2月14日	東ライフデザインセンター	「ぶらっと♪よりみち歴史ウォーク」 村国座見学	21
54	2月25日	市人事課新規採用職員研修	各務原市の歴史	28
55	3月12日	大野町文化財保護協会	坊の塚古墳・衣裳塚古墳見学	13

かかみがはら百科 Kakamigahara Encyclopedia
かかみがはら百科 2026 | Vol. 07
令和8年3月31日発行

かかみがはら百科 for キッズ 考古編

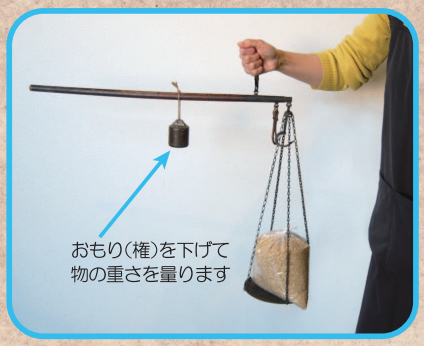
もっと知りたい！いま・むかし

Q これは、何に使う道具だろう。みんな、わかるかな？

くわしい解説は6～7ページにあります。

権 ？

令和７年度の発掘調査で大発見！キノコのような形をした金属のかたまりが出土しました。これは、奈良時代に「権」と呼ばれた物の重さを量る道具のひとつで、「おもり」のことです。とても貴重で、全国でも数点と数えるほどしか発見されていません。そんな特別な「おもり」が、なぜ鵜沼の畑から出土したのでしょうか。もしかしたらこの地に役所のような施設があったなど、私たちの想像以上に発展した地域だったのかもしれませんね。



江戸～昭和中期の竿ばかり。権も、同じように使用したと考えられます。

現代のおもりを用いたはかりは、理科の授業で使う上皿てんびんなどがあります。

中央図書館3階の「歴史ギャラリー」には、「権」と同じ奈良時代の遺跡から出土した甕や壺などの土器が展示されています。
各務原市那加門前町 3-1-3　各務原市立中央図書館３階

発行 各務原市教育委員会
編集 教育委員会事務局文化財課
各務原市歴史民俗資料館
各務原市埋蔵文化財調査センター

〒504-8555 岐阜県各務原市那加桜町1丁目69番地 TEL 058-383-1475
〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前町3丁目1番地3 TEL 058-383-1361
各務原市立中央図書館3階 TEL 058-383-1123

スマートミュージアム Kakamigahara

かかみがはら百科 Kakamigahara Encyclopedia